

各評価シートの記入内容

① まち・ひと・しごと創生事業 平成27年度実績評価シート【基本目標－数値目標】の記入内容は以下の通りとなっています。

		記入内容														
基本目標		基本目標を記入。														
数値目標		数値目標を記入。														
指標担当部課等		部等名, 課等名を記入。														
設定根拠		総合戦略の資料編に記載した設定根拠を記入。														
指標の方向性		指標が上向きの(増やす)ものなのか, 下向きの(減らす)ものなのかを矢印で選択。 上向き↑ …現在100のものを200にする 下向き↓ …現在不満が50%のものを30%に下げる														
進捗状況	自己評価	今年度末における指標の達成状況について, 「A 順調, B 概ね順調, C やや遅れ, D 遅れ」で自己評価し, 自己評価欄にアルファベットを, 進捗説明に状態を選択。 A 順調 … H27年度の目標を達成し, かつ目標を大幅に(120%程度)上待っている又は総合評価がB以上のもの 例: 目標)H26年度 100人をH27年度 120人にする 実績)124人(20人増加×1.2倍の達成) B 概ね順調 … H27年度の目標を達成している, 又は達成していない場合でも達成と同等と見なせる特段の理由がある(効果発現要因に要記載) C やや遅れ … H27年度の目標を達成していない D 遅れ … H27年度の目標を達成しておらず, かつ基準年度より悪化している 例: 目標)H26年度 100人をH27年度 120人にする 実績)95人(H26年度より悪化)														
	進捗説明															
従前値		従前値を記入。														
単位		単位を記入。														
基準年度		基準年度を記入。														
H27		H27～H31時点までの経過値を記入。 目標値を5で割り, 右肩上がり(下がり)とし, 基準年度と比較しやすいように設定。 H31は原則として目標値と同数。														
H28		<p style="text-align: center;">経過年度の設定の仕方(例)</p> <table border="1" style="display: none;"> <caption>経過年度の設定の仕方(例)のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年度</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	基準年度	10	H27	12	H28	14	H29	16	H30	18	H31	19
年度	目標値															
基準年度	10															
H27	12															
H28	14															
H29	16															
H30	18															
H31	19															
H29																
H30																
H31																
目標値		目標値を記入。														
単位		単位を記入。														
目標年度		目標年度を記入。														

実績値	H27	各年度の実績値を記入。
	H28	
	H29	
	H30	
	H31	
	合計	実績値の合計を記入。
	(単位)	単位を記入。
実績値の計算方法	実績値の計算方法を記入。確定している場合は確定値を、各月の積み上げ等の場合は平均値×12ヶ月で暫定値を計算。	
フォローアップ(H27数値確定)の時期	数値が確定している場合は確定を、確定していない場合は確定時期を選択。	
評価	有効性	単年度で評価し、指標が継続している場合は例年度と比較し評価を行い、新規指標の場合は類似指標と比較し評価を行う。 高: 成果が向上(高水準を維持)している 中: 適切な成果が得られている 低: 成果が低下(低水準を維持)している から選択。
	効率性	単年度で評価し、指標が継続している場合は例年度と比較し評価を行い、新規指標の場合は類似指標と比較し評価を行う。 高: 費用対効果が向上(高水準を維持)している 中: 適切な費用対効果が得られている 低: 費用対効果が低下(低水準を維持)している から選択。
	総合評価	有効性高・効率性高 ……S: 成果・費用対効果を維持して継続実施 有効性高・効率性中 ……A: 成果を維持して継続実施 有効性中・効率性高 ……A: 費用対効果を維持して継続実施 有効性中・効率性中 ……B: 成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施 有効性高・効率性低 ……C: 成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り 有効性低・効率性高 ……C: 費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り 有効性中・効率性低 ……D: 費用対効果を向上させる必要有り 有効性低・効率性中 ……D: 成果を向上させる必要有り 有効性低・効率性低 ……E: 事業の抜本的な見直し(縮小・廃止)の必要有り から選択。
	効果発現要因	指標がプラス又はマイナスに働いた要因や理由等を記入。 プラス : ○○事業が順調にいったおかげで数値が上昇した。 マイナス : H27年度は主に市場調査を実施し、H28年度以降に事業が本格化するため、H28年度以降に数値が現れる。等
課題	現時点での課題等を記入。	
今後の取組	来年度以降の取組について記入。	

② 【個別施策－重要業績評価指標(KPI)】の評価詳細

② まち・ひと・しごと創生事業 平成27年度実績評価シート【個別施策－重要業績評価指標(KPI)】の記入内容は以下の通りとなっています。

		記入内容														
基本目標		基本目標を記入。														
基本施策		基本施策を記入。														
シートNo.		個別施策のKPIが所在するシート。														
個別施策		個別施策を記入。														
数値目標		数値目標を記入。														
指標担当部課等		部等名, 課等名を記入。														
設定根拠		総合戦略の資料編に記載した設定根拠を記入。														
指標の方向性		指標が上向きの(増やす)ものなのか, 下向きの(減らす)ものなのかを矢印で選択。 上向き↑ …現在100のものを200にする 下向き↓ …現在不満が50%のものを30%に下げる														
進捗状況	自己評価	今年度末における指標の達成状況について、「A 順調, B 概ね順調, C やや遅れ, D 遅れ」で自己評価し, 自己評価欄にアルファベットを, 進捗説明に状態を選択。 A 順調 … H27年度の目標を達成し, かつ目標を大幅に(120%程度)上待っている又は総合評価がB以上のもの 例: 目標)H26年度 100人をH27年度 120人にする 実績)124人(20人増加×1.2倍の達成) B 概ね順調 … H27年度の目標を達成している, 又は達成していない場合でも達成と同等と見なせる特段の理由がある(効果発現要因に要記載) C やや遅れ … H27年度の目標を達成していない D 遅れ … H27年度の目標を達成しておらず, かつ基準年度より悪化している 例: 目標)H26年度 100人をH27年度 120人にする 実績)95人(H26年度より悪化)														
	進捗説明															
従前値		従前値を記入。														
単位		単位を記入。														
基準年度		基準年度を記入。														
H27		H27～H31時点までの経過値を記入。 目標値を5で割り, 右肩上がり(下がり)とし, 基準年度と比較しやすいように設定。 H31は原則として目標値と同数。														
H28		<p style="text-align: center;">経過年度の設定の仕方(例)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>経過年度の設定の仕方(例)のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準年度</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	年度	目標値	基準年度	10	H27	12	H28	14	H29	16	H30	18	H31	19
年度	目標値															
基準年度	10															
H27	12															
H28	14															
H29	16															
H30	18															
H31	19															
H29																
H30																
H31																
目標値		目標値を記入。														
単位		単位を記入。														
目標年度		目標年度を記入。														

実績値	H27	各年度の実績値を記入。
	H28	
	H29	
	H30	
	H31	
	合計	実績値の合計を記入。
	(単位)	単位を記入。
実績値の計算方法	実績値の計算方法を記入。確定している場合は確定値を、各月の積み上げ等の場合は平均値×12ヶ月で暫定値を計算。	
フォローアップ(H27数値確定)の時期	数値が確定している場合は確定を、確定していない場合は確定時期を選択。	
評価	有効性	単年度で評価し、指標が継続している場合は例年度と比較し評価を行い、新規指標の場合は類似指標と比較し評価を行う。 高: 成果が向上(高水準を維持)している 中: 適切な成果が得られている 低: 成果が低下(低水準を維持)している から選択。
	効率性	単年度で評価し、指標が継続している場合は例年度と比較し評価を行い、新規指標の場合は類似指標と比較し評価を行う。 高: 費用対効果が向上(高水準を維持)している 中: 適切な費用対効果が得られている 低: 費用対効果が低下(低水準を維持)している から選択。
	総合評価	有効性高・効率性高 ……S: 成果・費用対効果を維持して継続実施 有効性高・効率性中 ……A: 成果を維持して継続実施 有効性中・効率性高 ……A: 費用対効果を維持して継続実施 有効性中・効率性中 ……B: 成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施 有効性高・効率性低 ……C: 成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り 有効性低・効率性高 ……C: 費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り 有効性中・効率性低 ……D: 費用対効果を向上させる必要有り 有効性低・効率性中 ……D: 成果を向上させる必要有り 有効性低・効率性低 ……E: 事業の抜本的な見直し(縮小・廃止)の必要有り から選択。
	効果発現要因	指標がプラス又はマイナスに働いた要因や理由等を記入。 プラス : ○○事業が順調にいったおかげで数値が上昇した。 マイナス : H27年度は主に市場調査を実施し、H28年度以降に事業が本格化するため、H28年度以降に数値が現れる。等
課題	現時点での課題等を記入。	
今後の取組	来年度以降の取組について記入。	

③ 《交付金事業(基礎交付分)》
【重要業績評価指標(KPI)】の評価詳細

③ まち・ひと・しごと創生 《交付金事業(基礎交付分)》 実績評価シート【重要業績評価指標(KPI)】の記入内容は以下の通りとなっています。

	記入内容
事業名	事業名を記入。
事業の概要・目的	事業の概要・目的を記入。
交付金を充当する事業経費	交付金を充当する事業経費を記入。
個別事業名	事業に付随する個別の事業名を記入。
事業の概要	事業の概要を記入。
総予算額(円)	総予算額を記入。
国費充当額(円)	国費充当額を記入。
決算額(円)	事業終了後の決算額を記入。
不用額(円)	国費を使い切らなかった場合に不用額を金額で記入。無い場合は「無し」と記入。
事業始期	事業の開始時期を実施計画書と同様に記入。
事業終期	事業が実際に終了した時期を記入。
KPI	設定したKPIを記入。KPIが共通している場合は、N～Vまでの項目は同様に記入。それ以外の項目は個別事業ごとに異なる内容を記入し、特に、当個別事業がKPIにどのように影響したかを説明する。
担当部課等	担当部等、担当課等を記入。
設定根拠	KPIの設定根拠を記入。
指標値	指標の数値を記入。
(単位)	単位を記入。
目標年月	目標とする年月を記入。
実績値	最終的な実績値を記入。
(単位)	単位を記入。
計測時期	実績値の計測時期を記入。
実績値の計算方法	実績値の計算方法を記入。確定している場合は確定値を、各月の積み上げ等の場合は平均値×12ヶ月で暫定値を計算。
フォローアップ(H27数値確定)の時期	数値が確定している場合は確定を、確定していない場合は確定時期を選択。

評価	有効性	高:成果が向上(高水準を維持)している 中:適切な成果が得られている 低:成果が低下(低水準を維持)している から選択。
	効率性	高:費用対効果が向上(高水準を維持)している 中:適切な費用対効果が得られている 低:費用対効果が低下(低水準を維持)している から選択。
	総合評価	有効性高・効率性高 ……S:成果・費用対効果を維持して継続実施 有効性高・効率性中 ……A:成果を維持して継続実施 有効性中・効率性高 ……A:費用対効果を維持して継続実施 有効性中・効率性中 ……B:成果・費用対効果の向上に努めつつ継続実施 有効性高・効率性低 ……C:成果を維持し費用対効果を向上させる必要有り 有効性低・効率性高 ……C:費用対効果を維持し成果を向上させる必要有り 有効性中・効率性低 ……D:費用対効果を向上させる必要有り 有効性低・効率性中 ……D:成果を向上させる必要有り 有効性低・効率性低 ……E:事業の抜本的な見直し(縮小・廃止)の必要有り から選択。
効果発現要因	指標がプラス又はマイナスに働いた要因や理由等を記入。 プラス :〇〇事業が順調にいったおかげで数値が上昇した。 マイナス :H27年度は主に市場調査を実施し, H28年度以降に事業が本格化するため, H28年度以降に数値が現れる。 等	
課題	現時点での課題等を記入。	
今後の取組	来年度以降の取組について記入。	